

稲作生産情報第2号（要約）

平成31年4月5日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

-
-
- 浸種は丁寧に、催芽は「ハト胸^{むねじょうたい}状態」を必ず確認しよう。
 - 健苗育成と適正施肥で、良食味・高品質米を生産しよう。
-
-

<育苗作業>

- 1 苗代や育苗ハウスに雪が残っている場合は、消雪作業を急ぐとともに、排水溝を設置するなどして、置床の乾燥を早める。また、育苗ハウスに損傷がみられる場合は、育苗作業に支障がないよう早めに補修する。
- 2 浸種は、出芽を揃えるため、浸種時の水温はできるだけ10℃以下にならないようにするとともに、水温ムラが生じないよう種籾を入れた網袋の上下を適宜入れ替える。また、催芽は、出芽を揃えるため、ハト胸程度（芽の長さ0.5～1ミリ程度）に仕上げる。
- 3 は種量は、中苗で箱当たり、催芽籾で125g（乾籾で100g）を目安とし、厚播きにならないように注意する。
- 4 は種後の気温が低く、出芽の遅れが懸念される場合は、出芽を促進するため、育苗箱を育苗器で加温してから置床に設置する。
- 5 降霜や低温が予想される場合は、被覆資材で保温に努めるなど、生育時期に合わせた温度管理を徹底する。
- 6 かん水は、機械的に毎日行わず、箱土が乾いて苗の葉先が巻き始めたら、午前中のうちに、育苗箱の底までしみ込むよう十分に行う。
- 7 育苗跡地に他作物を栽培する場合は、置き床にビニールなどを敷いて、箱施用した農薬が置床にこぼれ落ちたり、かん水した水とともに農薬が浸透しないようにする。

<本田作業>

- 1 消雪が遅れ、滞水している水田では、排水溝を作り排水に努める。
- 2 低温時に深水管理ができるよう、畦塗機を活用して、畦畔のかさ上げや補強を行う。
- 3 堆肥等の有機物やケイカル、ようりん等の土づくり肥料は、低温や病害等に対する抵抗力を高めるので、土壌診断を実施し適正に施用する。
- 4 施肥は、品種や水田ごとに適正に行う。



報道機関用提供資料	
担当課 担当者	農産園芸課 稲作振興グループ 腰巡総括主幹
電話番号	直通 017-734-9480 内線 5073
報道監	農林水産部 船水次長（農商工連携推進監） 内線 4966